

VIII 宮崎県小・中学校特別支援教育研究会と  
宮崎県特別支援学校教育研究会の活動報告

# 小・中特研部会

## 1 研究主題（テーマ）

「教育的ニーズに応える特別支援教育の在り方について」

## 2 主な研究・活動の内容

### (1) 年間活動報告

- ① 全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会定期総会・研究協議会及び第1回全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会（6月2日 オンライン参加）
- ② 第1回事務局会の開催（6月27日 ZOOM）
- ③ 第1回理事会（7月19日 書面決議）
- ④ 令和4年度第24回宮崎県特別支援教育研究連合研究大会及び各分科会（7月29日 オンライン参加）
- ④ 第50回九州地区情緒障害教育研究会沖縄大会（8月4日 オンライン参加）
- ⑤ 第59回全国研究協議会千葉大会及び第2回全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会（8月4日 オンライン参加）
- ⑥ 第56回九州地区特別支援教育研究連盟研究大会沖縄大会（11月10日から11日）日向市立平岩小中学校 加塩祐子教諭がオンラインで発表
- ⑦ 第2回事務局会（1月23日 ZOOM）
- ⑧ 第3回全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会（1月27日 オンライン参加）
- ⑨ 第2回理事会（2月 書面決議）、研究集録「むすび」の発行（2月）
- ⑩ 監査（3月）

## 3 主な研究成果

### (1) 成果

- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面決議を行った。伝達が不十分な点もあったが、各地区担当理事の協力を得て、負担金を関係団体へ納金することができた。
- 第56回九州地区特別支援教育研究連盟研究大会沖縄大会（11月10日から11日）では、日向市立平岩小中学校の加塩祐子教諭が第5分科会 自立活動で発表を行うことができた。
- コロナ禍の中、各地区ごとに工夫を凝らしながらできる範囲での活動を行った。

### (2) 課題

- 各地区特研や障がい種別研究会から多くの協力を得られたが、活動推進に対しては本会から十分な支援を行うことができたとはいえない。

- 研究集録を冊子として作成・発行しているので、各学校での活用を呼びかけたい。
- 令和5年度から、小中特研の事務局が小戸小へ移動すること、R5九特連福岡大会は第4分科会「作業・進路」を串間地区が担当、R6九特連福岡大会は第3分科会「各教科等をあわせた指導」を宮崎地区が担当となることを、書面決議のなかで引き継ぎが上手くいくよう、連絡を密にしていく必要がある。

# 令和4年度 宮崎県特別支援学校教育研究会

## 1 組織

本会は、県内の特別支援学校によって組織され、職員の資質向上と特別支援教育の振興を図ることを目的とし、11部会で運営されている。

## 2 各部会の活動状況

### (1) 教務主任部会

本年度は、第1回を6月に新型コロナウイルス感染対策のためオンラインで実施し、第2回を12月にハイブリット方式(オンライン、対面)で開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症者数が増えたためオンラインのみの実施となった。各回ともに半日の実施であったが、今年度から期日が早くなった令和5年度幼稚部・高等部入学選考についての諸々の対応、コロナ禍等を踏まえた令和5年度学校行事の実施方法、県の統一様式(個別の指導計画・個別の教育支援計画)への移行の進捗状況、働き方改革について業務改善等、各校の具体的な取組等の意見交換を行い有意義な会となった。

### (2) 生徒指導主事部会

今年度は年2回の部会を計画した。研究テーマ「これからの生徒指導の在り方～連携と改善(校則・制服・いじめへの対応)」について、各校の課題等を集約し意見交換を行った。第1回は6月に対面にて実施した。第2回は1月に現在の課題解決と研究のまとめ、来年度のテーマについて検討する予定である。これからもミライム等を適宜活用し、即時に情報交換を行うことで連携を図り、共に課題を解決できるよう取り組んでいきたい。

### (3) 保健主事・養護教諭部会

今年度は、8月に予定していた合同部会が、新型コロナウイルス感染症の県内での感染状況を踏まえ、リモートでの開催となった。協議では、新型コロナウイルス感染症に関する取組をはじめ、各校の多くの議題や取組について情報交換を行い、共有することができた。新型コロナウイルス感染症に関しては、来年度も感染症対策を継続し、学校行事や学習活動をできる限り実施できるように取り組んでいければと考える。今後も各校の課題や取組を共有し、研修等を重ね学校保健の充実に努めていきたい。

### (4) 進路指導主事部会

本部会は、県立特別支援学校の進路指導主事及び宮崎県特別支援学校教育研究会理事(部会長)で構成されている。本年度の部会は、第1回目の開催を8月25日(木)に行った。各学校の進路支援の取り組みについて情報交換を行い、キャリアパスポートについても協議をすることができた。第2回目の部会は2月3日(金)にみなみのかぜ支援学校での開催を予定している。内容は、各学校の進路状況や進路指導上の成果や課題などについて協議を行い、次年度に役立てたい。

(5) 栄養教諭・栄養職員部会

本年度の栄養教諭部会は、第1回部会を7月26日（金）に日向ひまわり支援学校をホストにオンラインで開催し食材費の高騰に対する学校給食での対応について共有した。第2回は、12月15日（木）に日向ひまわり支援学校にて、調理場の見学の他、コロナ禍前後での給食感謝週間での実施内容や各学校での給食費の値上げ検討について情報の共有を行った。今後も各校の課題や取組を共有し、安全・安心な給食運営と食育の充実を図っていきたい。

(6) 美術科代表者部会

平成14年から開催している「特別支援学校アート展」は、今年で20回を迎え、9月15日（木）より9月19日（月）まで宮崎県立美術館県民ギャラリーにて開催された。会期中台風により3日半の開催となったが、887名の来場者があった。今年のアート展の出品数は、造形・絵画262点、書道27点、写真41点、立体54点、合計384点となった。

(7) 音楽科代表者部会

6月と8月に行った音楽代表者部会では、本年度11月と12月に開催した令和4年度九州音楽教育研究大会宮崎大会に向け、研究テーマに基づいた授業研究をし、大会で公開授業の指導案検討を行った。また、大会の運営委員として、開催に向け、係打ち合わせなど準備を行った。結果、これまでにないハイブリッド式（対面とオンライン形式による）での大会運営であったが、無事に実施でき、意義のある大会となった。

(8) 保健体育科代表者部会

本年度は年3回の部会を計画した。第1回は明星視覚支援学校にて研究の進め方について協議し、段階表を活用して授業と評価の改善について取り組むことを確認した。第2回は新富町総合交流センターにて全国学校体育研究発表大会の報告や、保健体育科代表者部会 GoogleClassroom の活用及び今後の保健体育科の組織の在り方について協議を行った。第3回は児湯るびなす支援学校にて、次年度の研究についての協議や ICT 教材の作成を行う予定である。

(9) 家庭科代表者部会

今年度は「学びに向かう力を高めるための家庭科教育とは～食物教育について～」という研究主題を設定し、食物に関する研修を2回計画した。第1回の部会は、コロナ感染症対策を行い、みなみのかぜ支援学校で実技講習「クリスマスシュトーレン作り」を行い、各学校の実践報告などを行った。また、2回目は Zoom 開催を行い、タブレットを使った家庭科教材紹介（食物教育）や、今後の部会の進め方についての提案を行った。

(10) 自立活動代表者部会

本年度は、第1回目を8月に清武せいりゅう支援学校を会場校とし、対面とオンラインを併用し部会を実施した。特別支援教育におけるICTの活用に関する講義、事前アンケートを踏まえた各学校の情報交換を行った。第2回目は12月に清武せいりゅう支援学校を会場校とし、オンラインによる部会を実施。講話「自立活動×ICTの実践」にて理論を深め、各学校の「自立活動×ICT活用実践事例」報告から情報共有を行うことができた。今後もより一層自

立活動の指導の充実へと繋がる部会運営に努めていきたい。

(11) 情報教育代表者部会

第1回の部会を9月に Google Meet によるオンライン形式で実施した。多様な会議手段の確保が狙いである。主な議題は、DropTap などのアプリの紹介や iPad を活用するにあたってのルール作りなどであった。授業における ICT 機器の利用については、保護者との共通理解と教育課程に基づいた根拠のある活用が重要であるという共通理解をもった。第2回は令和5年3月にオンライン形式で開催予定である。